

追 悼 評 議 員 浅 田 讓 君

浅田讓君は、勤務地西独シッセルドルフにおいて昭和39年3月19日心筋硬塞で急逝せられ、4月4日渋谷区中通り福昌寺において葬儀が執り行われました。その際本会を代表して会長より霊前に弔詞を捧げました。ここに同君の冥福を祈り、つつしみて哀悼の意を表します。



略 歴

明治38年	京都府に出生
昭和4年	京都帝国大学工学部鉄冶金科卒業
昭和5年	満鉄・鞍山製鉄所入社
昭和19年	満鉄・鞍山製鉄所製鉄部長
昭和22年	宮井炭礦(株)常務
昭和24年	日本製鉄(株)入社
昭和27年	富士製鉄(株)技術部長
昭和31年	富士製鉄(株)川崎製鋼所長
昭和32年	富士製鉄(株)参与
昭和34年	富士製鉄(株)第二販売部長
昭和36年	富士製鉄(株)欧州事務所長

弔 詞

本会評議員浅田讓君の訃報に接し悲しみに堪えず、謹んで弔詞を呈します。

君は夙に製鉄技術の権威者として令名高い方でありまして、本会に関しましては理事、評議員の要職を歴任し本会の運営に尽瘁されましたが、特に昭和27年より約10年間の長期に亘り製鉄部会長としてわが国製鉄技術の進歩発達に情熱を傾けられまして、わが製鉄設備技術を戦後の荒廃から今日の高水準にまで到達させるために君の果された役割は極めて大きいものであります。

君は社命により3年前から駐在されていた欧州において突然永眠されましたが、わが国の鉄鋼業が世界の鉄鋼業として発展して、君の国際的感覚による指導が切望されておりますときに再び君の温容に接することができなくなりましたことは、洵に哀惜に堪えないところであります。

ここに日本鉄鋼協会を代表し君の遺された幾多の業績に深甚の敬意を表し、謹んで冥福を祈り哀悼の誠を捧げます。

昭和39年4月4日

社団法人日本鉄鋼協会会長 三 島 徳 七